

■ 悲しみを喜びに変えるチカラは、一人一人の心の中にある

絵本『ユーナの樹とトモダチ』の中で、リンクがやってきた嵐の夜の翌日、「本当に恐ろしいことが起きるの？」ときいた動物の子どもたちに、ユーナじいさまはこう言いました。

「起きるかもしれないが、喜びになるかもしれない」
「答えはお前たち一人一人の心の中にあるんでな」と。

まるで、なぜなぞです。子どもたちもどういう意味なのか、よく分かりませんでした。でも、物語の最後にはきっとこの言葉の意味が心から理解できたのではないのでしょうか。

こんな話がよく例えに出されます。

コップに半分の水が入っています。このとき、あなたは どう 思いますか？と。

「まだ、半分水が残っている」
それとも、「もう、半分しか水が残っていない」でしょうか？

本来、あらゆる出来事に、喜びや悲しみ、苦しみといった性質はない。すべてはそれを受け止める人の心持ち次第なのだといった話です。

「まだ半分ある」と思う人も、「もう半分しかない」と思う人も、肝心なことは、自分を高めるチャンスだ

と受け止め、前向きに立ち向かっていくことではないでしょうか。「まだ半分ある」とゆとりを持って粘り強く立ち向かうか、あるいは「もう半分しかない」と気合を入れ直し発奮して立ち向かっていくか。

絵本の最後に、ユーナじいさまはこう言いました。「悪いことを起こすのも広めるのも、喜びに変えるのも気持ち一つじゃ。姿形や言葉は違っても、心と心で分かり合えば、正しい答えは見えてくるはずじゃ。そうすれば、どんなことにもみんなで立ち向かえるし、喜びも分かち合えることじゃろう」

『人権』とは、「すべての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」あるいは「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持つ権利」と言われます。そして、それは誰にとっても身近で大切なものであると同時に、日常の思いやりの心によって守られるものだと私たちは考えています。それは「命を大切にすること」であり、「みんなと仲良くすること」です。

その人権が誤った認識や偏見によって侵されるとき、私たちは力強く立ち向かっていきたいものです。みんなで差別を乗り越え、みんなで喜びを分かち合いたいと思います。

映画のシーン

ウサねーちゃん「ユーナじいさま、本当に恐ろしいことが起きるの？」
ユーナじいさま「起きるかもしれないが、喜びになるかもしれない」
「答えはお前たち一人一人の心の中にあるんでな」



ユーナじいさま「悪いことを起こすのも広めるのも、喜びに変えるのも気持ち一つじゃ。姿形や言葉は違っても、心と心で分かり合えば、正しい答えは見えてくるはずじゃ。そうすれば、どんなことにもみんなで立ち向かえるし、喜びも分かち合えることじゃろう」



■ それって、助けてあげないのと同じじゃないの？

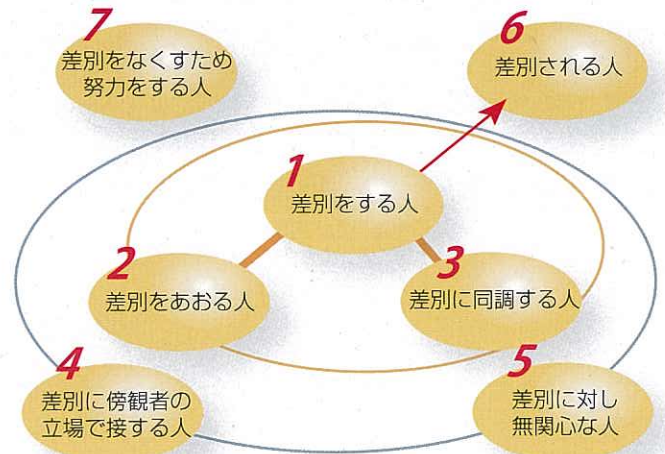
差別を取り巻く私たちの立場は図のように7つの立場に分けられ、必ずどこかに属しているといわれます。

①②③の人は、人間として誤った立場に立っていることは言うまでもありません。しかし、差別はこれらの人たちだけで成り立っているわけではありません。

なぜなら、④⑤の人は差別に対し黙っていることで、差別を容認していることになるからです。同時に、時と所が変われば、いつでも差別をする人になってしまう可能性があります。

絵本『ユーナの樹とトモダチ』の中で、島の外からやってきたリンクを島から追い出そうと動物たちが話していたとき、ふくろうたちはこんな会話を交わしました。

差別に対する7つの立場



差別があることは知っているが、誰かが助けるだろうとただ眺めている人。

差別があっても、自分にはぜんぜん関係がないと思っている人。

映画のシーン

リンクのことについて動物たちが話し合っているとき。
ふくろう父「なんだか面倒くさいことになってきましたな」
たぬき「そうですねえ。このつうとまは、黙って見てる」
「跟の」
ふくろう父「そうそう。関わらないのが一番ですな」

モンチャ「え…。ママはあの鳥さんを助けてあげないの？」

サル母「助けたいけど、まずは自分たちの身を守るのが先だわ」

モンチャ「それって、助けてあげないのと同じじゃないの？」

リンクの泣く声を聞いて、会いに行こうと言うモンチャに、
モンチャ「ウサねーちゃん、あの鳥に会いに行ってみようよ」
ウサねーちゃん「えっ…」

モンチャ「だって、ほら、あんなに悲しそうに、助けを求めてるのよ」

ウサねーちゃん「私には聞こえない…」

モンチャが助けに行った後、

ユーナじいさま「ウサねーちゃんは行かなくていいのかね」

ウサねーちゃん「私には何も聞こえないから…」

ユーナじいさま「聞こえないのではなくて、聞くのが怖いんじゃないのかな」

ウサねーちゃん「そんなこと…ない。聞こえないだけ…。聞こえないから…。私には関係ないもん…」

ユーナじいさま「もしウサねーちゃんがあの鳥だったら、今、どんな気持ちなのか、考えてごらん」



「なんだか面倒くさいことになってきましたな」
「そうですね。こういうときは、黙って見るに限る」

「そうそう。関わらないのが一番ですな」
一方、モンチャとお母さんは、こんなやり取りを交わしました。

「助けたいけど、まずは自分たちの身を守るのが先だわ」

「ママはあの鳥さんを助けてあげないの？」
「それって、助けてあげないのと同じじゃないの？」

大人たちの姿勢は、子どもたちに引き継がれます。モンチャがリンクを助けに行ったとき、ウサねーちゃんとホーはこんな会話を交わします。

ウサねーちゃん「モンチャは、あの鳥を気にして、龍

の谷へ会いに行ったわ」

ホー「えー、そりゃ大変だ。リスくんとウリ坊がああ鳥をやっつけるって龍の谷へ探しに行ったよ」

ウサねーちゃん「モンチャがああ鳥と一緒にいるところを見つかったら…」

フクロウの親からフクロウの子ホーへ傍観者の姿勢、無関心の心が受け継がれます。そんなことが続くと、人は人の痛みに気づくことさえできなくなります。

確かに、人の苦しみに関わることは、勇気のいることかもしれません。でも、忘れないでください。その思いやりが日常に自然な姿で現れるとき、そこに温かい人と人との触れ合いが生まれるのです。

映画のシーン

モンチャがリンクを助けに行ったとき、逆にリスくんとウリ坊はリンクをやっつけに行っていた。そのときのウサねーちゃんとホーの会話。

ウサねーちゃん「リスくんたちと一緒にじゃないの？」

ホー「関わると厄介だもんね」

ウサねーちゃん「モンチャはああ鳥を気にして、龍の谷へ会いに行ったわ」

ホー「えー、そりゃ大変だ。リスくんとウリ坊が、ああ鳥をやっつけるって龍の谷に行っ

たよ」

ウサねーちゃん「モンチャがああ鳥と一緒にいるところを見つかったら…」

ホー「…ぼく、しーらな」

男子児童Fがタオロンの傘を下駄箱の上に放り投げたのを見て

女子児童I「あつー」

女子児童J「い、行くう…」

画材道具を隠されて絵をかけない海人とのことをからかわれて、

女子児童1「フラブのひかりちゃんが絵の具とか貸してあげればー」

男子児童2「二人で仲良くお絵かきしろよ」

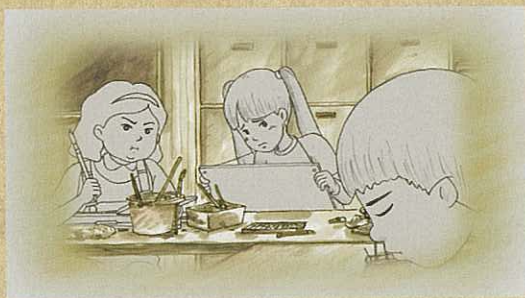
女子児童3「もう、どうしてひかりちゃんのことからかうの？こまの

よね、ひかりちゃん？」

ひかり「う、うん…。私には関係ない…」

ひかり 回想シーン

「あれ以来、海人くんはますます無口な子になって…。いじめも
続いていたけど、私は関わり合いにならないようにして…。私は、
あの時からずっとそんなふうに関介事から逃げ続けて…」



■ 友達の友達は友達？ それとも他人？

あなたにとって、友達の友達は友達でしょうか？ それともあくまでも他人でしょうか。こんな質問はあまりに極端かもしれませんが、でも、友達の友達とは、友達になれるかもしれませんね。

リンクを助けようとするモンチャやウサねーちゃんと、やっつけようとするリスくんやウリ坊が対峙したとき、リスくんはこう言いました。

「こんなヘンなやつと分かり合えるかよ！」

「モンチャとは友達だけど、そいつは違う！」と。

そのとき、ウサねーちゃんがこう言いました。

「モンチャとリンクは友達になったのよ。モンチャは友達でしょ？ だったら、モンチャの友達を助けてあげようよ！」

実は、その言葉は、誰よりも孤独の中にいたリンクの気持ちを救ったものでもありました。

風の渦に巻き込まれたリスくんを命懸けで救ったリンクがリスくんを助けた理由を問われてこう答えまし

た。

「トモダチノ トモダチ」

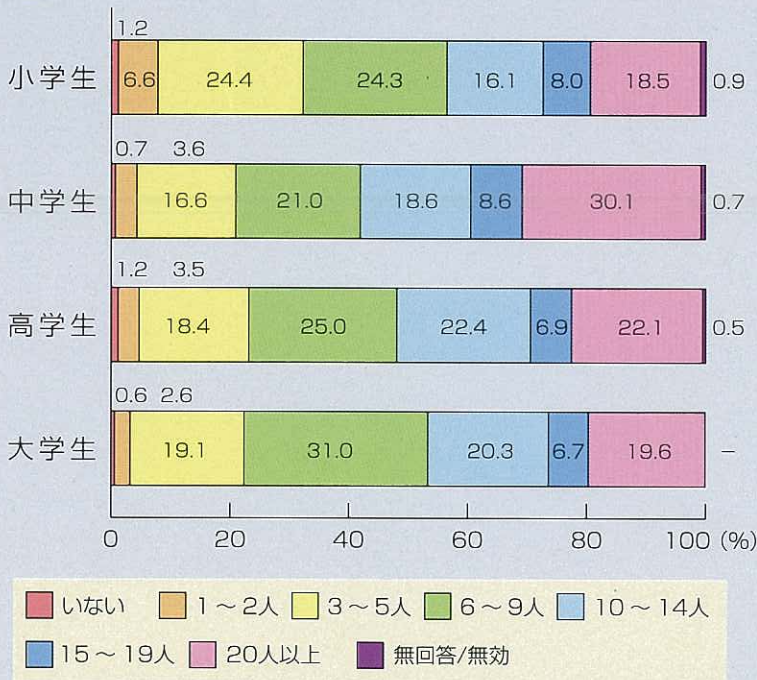
リンクの勇気ある行動が、リスくんの気持ちを変えたシーンです。リンクの「トモダチのトモダチ」を思う強い心が、リスくんやほかの動物たちの心を開いたのです。

私たちは、普段、親しくない人や他人、ましてや対立する人に対して、リンクのような思いやりを持って接することがなかなかできません。人への思いやりや優しさがいつも報われるとも限りません。

それでも、私たちは人を信じて、思いやりや優しさを持ち続けたい。報われたいからではなく、人の心を信じて。決して尽きることのない、私たち自身の思いやりや優しさの心を信じて。その信じる心の強さが人の気持ちを変えることを、もう私たちは知っているのですから。

問

あなたが現在よくつきあっている親しい友達は、何人くらいいますか。



このグラフは内閣府の調査結果です。あなたは、何人くらいの友達がいますか？「友達の友達は友達」そんなきっかけで友達になった人がいるでしょうか？

人は、家族、友達、知り合い、他人と、それぞれ違う心理的な距離を持って生活しています。友達はどんなきっかけにして、他人からスタートする関係です。他人（相手）の気持ちに思いを馳せ、思いやりや優しさの心を持って接していくことが、あなたの人間関係と生活を豊かにしていくのではないのでしょうか。